

解説

前田 君江

ジュルナル・ハージャー(トルコ語では、Culnar Hajo と表記) 原作・イラストレーションによる絵本 *Anâ vat-ânâ Hinlan Thaqilun* (アラビア語タイトル直訳は、『ぼく、そして、自我は重い荷物』) は、二〇一三年にアラブ首長国連邦のドバイの出版社ヌーフ・ル・ムーサーから刊行された。翌二〇一四年には、ジュルナル自身が現在暮らすイスタンブールのセディル出版より、トルコ語訳が刊行されている。

訳者は、二〇一五年夏に、同セディル出版を訪れた際、この作品に初めて出会い、不思議な魅力に惹かれた。また、内戦のシリアを追われトルコの地で創作・出版活動を果敢に続ける作者に想いを馳せた。アラビア語原書の入手が叶わぬまま、トルコ語訳から日本語に翻訳したのは、このような経緯に拠る。

ジュルナル・ハージャーは、一九七七年にダマスカスに生まれ、ダマスカス大学美術学部(絵画学科)を卒業したのち、二〇〇四年より児童書出版に携わるようになる。同年、絵本『ぼく

がおどるとき、ぼくがかなしごととき』(*Indamâ yghdabur - Indamâ Abzamu*) で、ダマスカス・《アンナ・リンダ財団》賞を受賞して以後、二十冊余りの児童書を出版している。

シリア内戦が激化するなか、ジュルナルは、家族とともに、シリアを逃れ、ヨルダンへ移り住んだ。その後、一週間のイスタンブール訪問を経て、同地に暮らすことを決めたという。ジュルナルの親族は、すべて国外各国へ移り住み、祖国には誰ひとり残っていないと、インタビューの中で彼女は語っている。

ジュルナルは、二〇〇四年、ダマスカスで仲間のアーティストらと出版社 *the Bright Fingers publishing house* を創設した。トルコ移住後は、同社の活動拠点をイスタンブールに移している。「私たちの真のマーケットは、いまもアラブ世界」と語り、絵本の創作を続けるほか、シリアとトルコの子供たちに向けたイラストレーション&絵本プロジェクトを進めている。

拙訳、および、イラストレーション掲載をご快諾下さった、原作者ジュルナル・ハージャー氏、および、セディル出版社主・編集長のメリケ・ギユンユズ氏に感謝申し上げる。なお、トルコ語訳のコピライトは、同セディル出版とともに、ジュルナルの *Bright Fingers* 社に帰属する。

本解説は、『ドバイのアラビア語紙』および

び、トルコの英字紙 *Today Zaman* のネット版関連記事を参照した。

(<http://www.albayan.ae/five-senses/culture/2013-12-31-1.2031591>)

http://www.todayszaman.com/expat-zone_art-and-words-for-children-of-war_368569.html)

※左は、児童労働をテーマにしたジュルナルの絵本『ぼくたちの色』(トルコ語タイトル『失われた色』*Kayip Renkler*, 2014年の一ページ)。「わたしは、まじにぞ、ガムをうぬ。ガムのつこみは、みんなおなじかたぢ、おなじじら。(中略) わたしだけの、つこみが、ほしいな。わたしのすぎないら。さぞじこにもない」

